

2019年度 ALL DOSHISHA 教育推進プログラム

事業者：スポーツ健康科学部

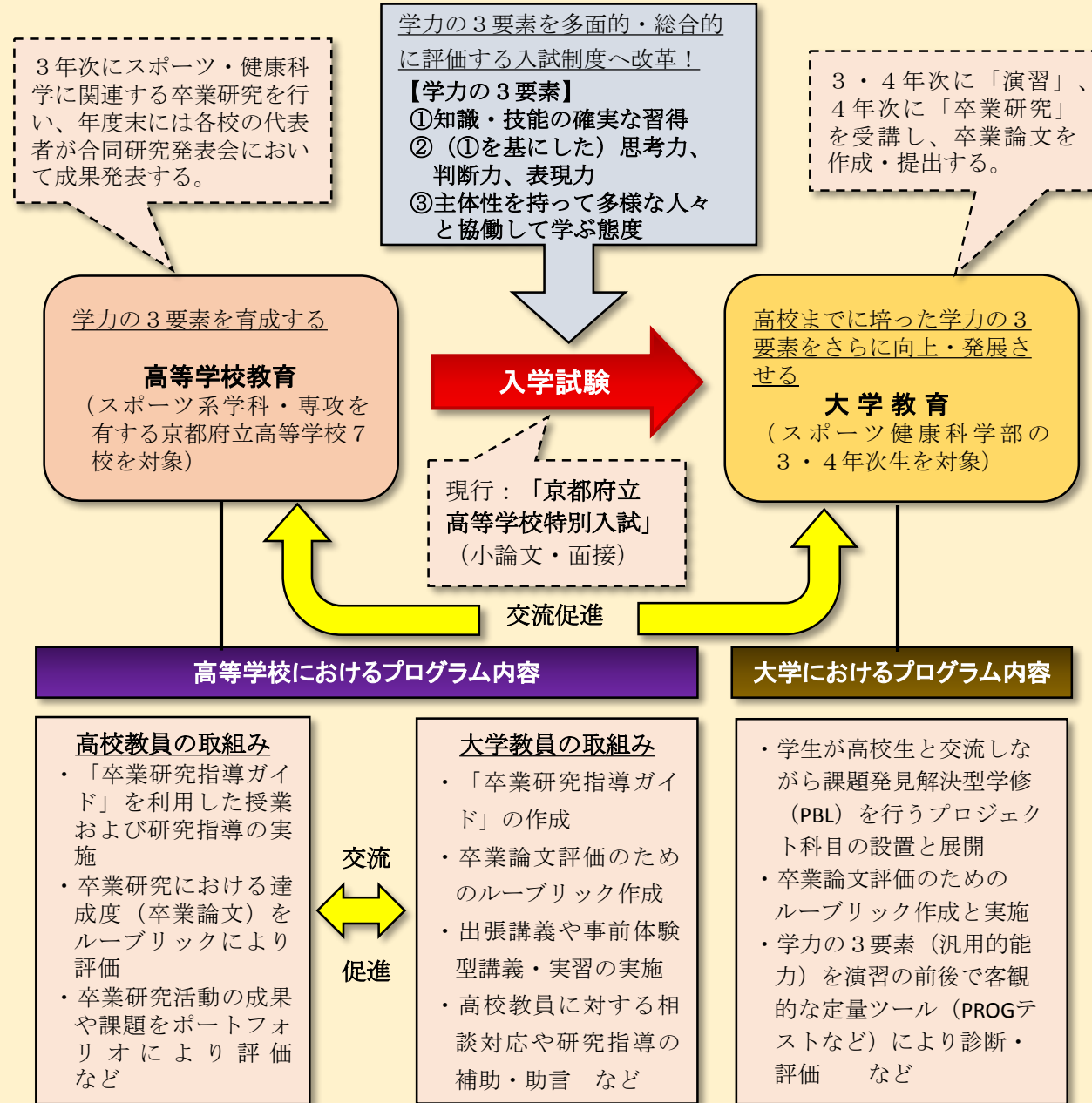
申請者：柳田 昌彦(スポーツ健康科学部教授・学部長)

事業責任者：中村 康雄(スポーツ健康科学部教授)

プログラム名：「スポーツ・健康科学研究」を通して学力の3要素を育成する高大接続プログラムの開発とその強化

プログラムのタイプ：タイプ4 接続教育の強化
タイプ

「スポーツ・健康科学研究」を通して学力の3要素を育成する高大接続プログラム



目標
(短期)

「スポーツ・健康科学研究」を通して高校生と大学生の学力の3要素を向上・発展させる！

目標
(中期)

スポーツ現場に高度な科学性と豊かな人間性を持った競技者や指導者を輩出する！

目標
(長期)

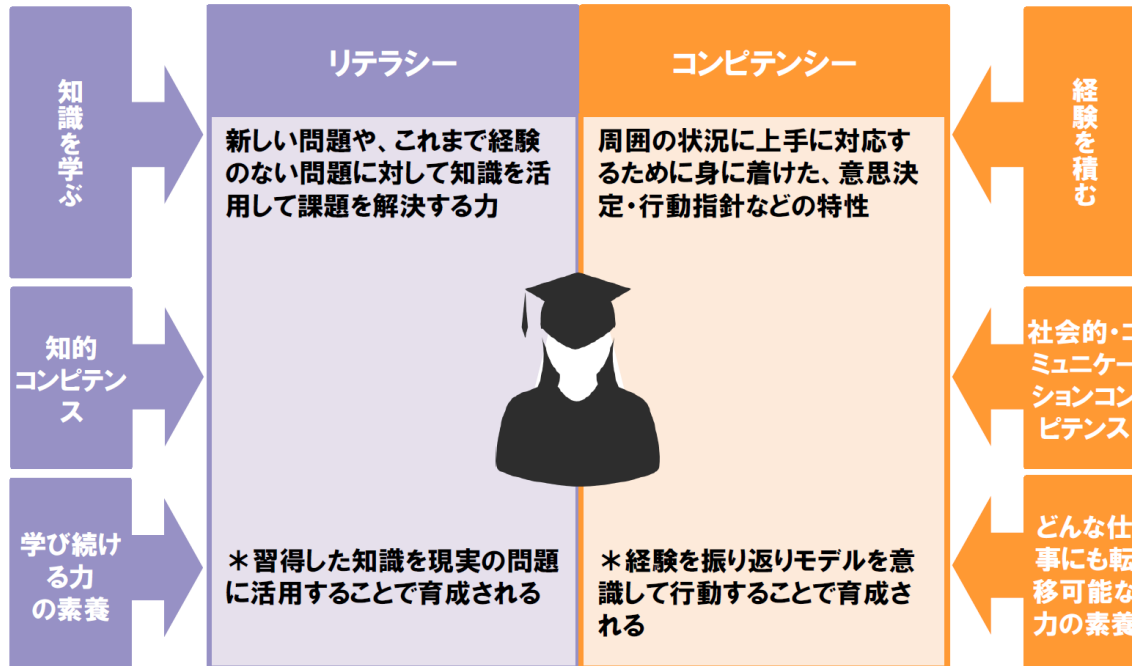
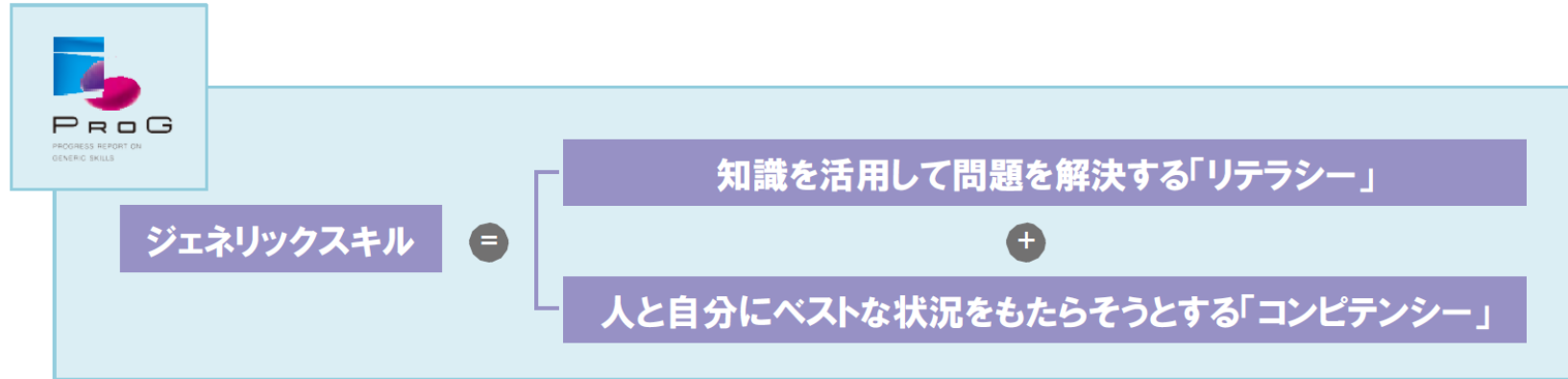
京都府および日本のスポーツ競技力・指導力の向上・発展に寄与する！

◆日本における汎用的能力の概念

名称	機関・プログラム	出典	年
【初等・中等教育】 生きる力	文部科学省	中央教育審議会答申『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について－子供に[生きる力]と[ゆとり]を－』	1996
リテラシー	OECD-PISA	国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能』	2001
人間力	内閣府(経済財政諮問会議)	『人間力戦略研究会報告書』	2003
キー・コンピテンシー	OECD-DeSeCo	ライチェン&サルガニク『キー・コンピテンシー』	2006
【高等教育・職業教育】 就職基礎能力	厚生労働省	『若年者就職基礎能力修得のための目安策定委員会報告書』	2004
社会人基礎力	経済産業省	『社会人基礎力に関する研究会「中間とりまとめ」報告書』	2006
学士力	文部科学省	中央教育審議会答申『学士課程教育の構築に向けて』	2008

◆汎用的能力(学力の3要素)の評価

「PROG(Progress Report On Generic skills)テスト」の利用(河合塾)



「コンピテンシー（能力）」とは、単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求（課題）に対応することができる力。

「キー・コンピテンシー」について
文部科学省HPより

スポーツ健康科学部の卒業研究ルーブリック（案）

評価項目と基準	A	B	C	D	F
積極性	自ら興味を持って課題への取り組みや関連する知識の取得を能動的に遂行できる。	積極的に課題へ取り組み、問題解決しようとする。	教員や大学院生等の指導を尊重し、課題への取り組みができる。	教員の指導に従わず、課題に取り組むことができない。	研究活動としてやるべきことが分からない。
理解度	国内外の様々な研究に関する最新情報を精査し、研究活動に関連付けできる。	国内外の関連研究について情報を整理して、研究課題を説明できる。	国内外の関連研究について把握できているが、情報を整理して説明できない。	指導者が直接伝えた研究内容は理解している。	研究内容について、理解できていない。
計画性・問題発見解決能力	これまでの知見や自らの経験に基づく理論構築を行い、問題点を発見すると共にそれに対して適切な研究方法を立案し、計画的に実行できる。	得られた知識に基づく理論構築や問題点の抽出を行い、適切な研究計画を立案し、計画的に実行できる。	研究の背景となる過去の論文または情報の必要性を理解し、その研究を実行しているが、教員から指示されたことのみを遂行するにとどまり、そこに理論的思考を伴っていない。	研究の意義や背景について理解しているが、積極的に新しい情報や文献を入手して研究を展開していく姿勢が見られない。	研究すべき問題点が分からない。研究方法を立案できない。
研究成果の到達度	研究計画に従って研究を遂行し、当初目的としていた成果を得ることができた。または、予想していた成果とは違った結論が得られたが、その意義を完成度の高い卒業論文としてまとめることができた。	研究計画に従って研究を遂行し、成果を得た。やや高いレベルの卒業論文を作成することができた。	研究計画に従って研究を遂行し、成果を得た。体裁の整った卒業論文を作成したが、標準的レベルであった。	研究計画に従って研究を遂行したが、十分な情報が得られなかったか、または目論んでいたまとめ方にそぐわぬ結論を得たため、そこで挫折してしまった。卒業論文は作成した。	研究計画通りに研究を遂行しておらず、未解決の部分が多い。卒業論文も未完成である。
発表能力	聴衆の理解度を把握しながら、話しかけるような姿勢で明瞭に話すことができた。質問にも的確に答えていた。	発表原稿を見ずに発表できた。音量、時間配分、話す速さが適切であった。質問にほぼ満足に答えていた。	発表原稿・メモをただ棒読みしている。聴衆への発表であることを意識できていない。	聴衆への配慮がほとんどない。不要な言葉（あ～、え～など）や表現を多用し、不誠実な発表態度である。	聴衆に対する発表を行っていない。
生涯学習・研究力	スポーツ健康科学に必要な最先端の知識、技能あるいは研究をさらに推し進める意欲が非常に高い。	卒業後も自律あるいは自立して学習する姿勢と継続して学習するための方法論を習得している。	卒業後も学習できる姿勢と学習法を習得している。	生涯学習の重要性や学習方法を理解しているが、現状の学習力が不十分である。	生涯学習の重要性が理解できていない。あるいは、その意欲がない。

※ルーブリックとは、ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事項を配置するための道具（Dannelle, 2013）

◆高大接続プログラムの実施体制および役割分担

